

事務事業名		敬老祝金支給事業		<input type="checkbox"/> 実施計画掲載事業	<input type="checkbox"/> 総合戦略掲載事業	
政策体系	政策名	02 安心が確保されたまちづくりの推進		事業期間		
	施策名	09 地域福祉の充実		区分		
	基本事業名	02 高齢者支援の充実		単年度繰返		
根拠法令		大船渡市敬老祝金支給条例		※期間欄に開始年度を記入		
所属	部課名	保健福祉部長寿社会課		【開始年度】		
	課長名	佐々木 卓也		昭和50 年度～		
	係名	高齢者福祉係	電話	0192-26-2943		
	担当者	鈴木 伸	内線	439・440		
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)				事務事業区分		
長寿を祝福して、100歳到達の祝状と祝金を贈呈する事業である。 主な業務 ①対象者の確認 ②対象者の審査 ③対象者との訪問日時の調整 ④祝状の作成と祝金の準備 ⑤祝状と祝金の贈呈				E 一般		
				全体計画(※期間限定複数年度のみ)		
				総投入量 (千円)	国庫支出金	
					都道府県支出金	
					地方債	
					その他	
					一般財源	
					事業費計(A)	0
				正規職員従事人数		
				延べ業務時間		
				人件費計(B)	0	
				トータルコスト(A)+(B)	0	

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 手段(主な活動)	⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)
前年度実績(前年度に行った主な活動) 対象者に敬老の祝状と祝金を贈呈	名称 単位
今年度計画(今年度に計画している主な活動) 前年度と同じ。	ア 贈呈件数 件
	イ
	ウ
② 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等	⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標)
100歳の誕生日において市内に居住する者で、誕生日前1年以上引き続き市内に住所を有する者	名称 単位
	カ 贈呈対象者 人
	キ
	ク
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)	⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)
100歳の長寿を祝福する。	名称 単位
④ 結果(基本事業の意図:上位の基本事業にどのように貢献するのか)	サ 支給割合(100歳到達者に占める支給人数) %
生きがいをもちて暮らせる。	シ
	ス

(2) 総事業費・指標等の推移

投入量	事業費	財源内訳	単位	年度						
				2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(実績)	5年度(実績)	6年度(目標)	7年度(目標)	
投入量	事業費	国庫支出金	千円	0	0	0	0	0	0	0
		都道府県支出金	千円	0	0	0	0	0	0	
		地方債	千円	0	0	0	0	0	0	
		その他	千円	0	0	0	0	0	0	
		一般財源	千円	470	530	661	387	849	1,560	
	事業費計(A)	千円	470	530	661	387	849	1,560		
	人件費	正規職員従事人数	人	1	1	1	1	1	1	
		延べ業務時間	時間	50	50	50	50	50	50	
		人件費計(B)	千円	200	200	200	200	200	200	
		トータルコスト(A)+(B)	千円	670	730	861	587	1,049	1,760	
⑤活動指標		ア	件	15	17	21	12	25	52	
	イ									
	ウ									
⑥対象指標	カ	人	15	17	21	12	25	52		
	キ									
	ク									
⑦成果指標	サ	%	100	100	100	100	100	100		
	シ									
	ス									

事務事業ID	0193	事務事業名	敬老祝金支給事業
--------	------	-------	----------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等	
① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？ ・老人福祉法第1条から第5条までの規定に基づき、高齢者の長寿を祝福し、併せて社会の発展に寄与してきたことに感謝する。	
② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は、開始時期あるいは前期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？ ・高齢者の増加に伴い、3回の贈呈者の見直しをした。 ①昭和50年度制定 85歳以上(1万円/人) ②平成16年度改正 85歳、88歳、99歳、100歳以上 ③平成27年度改正 88歳(1万円/人)、100歳(3万円/人)(85歳・99歳廃止) ④令和元年度改正 100歳(3万円/人)(88歳廃止) ・令和4年市議会第1回定例会に敬老祝金支給事業の廃止(条例を廃止する議案)を提案するも否決となり、令和4年度以降も事業を継続する。	
③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？ ・平成27年度改正では、廃止した年齢(85歳、99歳)の高齢者家族からの苦情が寄せられた。 ・令和元年度改正では、敬老会で100歳と88歳の贈呈者を披露してきた地区公民館長から、「88歳の廃止は残念」との声があった。 ・市議会からは、百寿の祝福や敬老意識の高揚は大切であり、敬老祝金支給事業の廃止には反対との意見がある。	

2 評価の部(SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は当市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている ▼ 理由・内容 ・市として長寿を祝福することは、高齢者の生きる励みになり、施策体系に結びついている。
	② 公共関与の妥当性 なぜこの事業を当市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である ▼ 理由・内容 国、岩手県、県内の自治体でも100歳到達者の祝金贈呈等を実施しており、当市の事業は妥当といえる。
	③ 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 適切である ▼ 理由・内容 これまでに贈呈対象者の見直しを3回行い、令和元年度からは100歳到達者のみを贈呈対象としている。
有効性 評価	④ 成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？	<input type="checkbox"/> 向上余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がない ▼ 理由・内容 市長の訪問により贈呈しており、本人や家族等から大変喜ばれている。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	<input type="checkbox"/> 影響がない <input checked="" type="checkbox"/> 影響がある ▼ 理由・内容 ・事業を廃止した場合は、100歳到達者や家族等からの苦情が予想される。 ・市の高齢者施策のイメージ低下につながるおそれがある。
効率性 評価	⑥ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input type="checkbox"/> 削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ▼ 理由・内容 これまでに贈呈対象者の見直しを3回行い、令和元年度からは100歳到達者のみを贈呈対象としており、事業費削減の余地はない。
	⑦ 人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずにより正職員以外の職員や委託できないか？(アウトソーシングなど)	<input type="checkbox"/> 削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ▼ 理由・内容 業務内容は最小限のものであり、人件費削減の余地はない。
公平性 評価	⑧ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である ▼ 理由・内容 ・事業を開始した昭和50年は85歳以上の高齢者は現在よりも少なく、長寿を祝福する市の象徴的な給付事業とされた。 ・事業の在り方(廃止)は、市民感情を考慮しつつも、他の事業との優先度や重要度を勘案して判断する。 ・事業の性質上、受益者負担はなじまない。

3 今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 改革改善の方向性	(2) 改革・改善による期待成果	(3) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等																							
1 現状維持	<table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>●</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持		●	×	低下		×	×	<ul style="list-style-type: none"> ・過去3回に渡って支給要件等の見直しを行っており、事業経費の削減が図られている。 ・市全体の業務改善の中で検討した上で見直し等を判断する。
		コスト																							
		削減	維持	増加																					
成果	向上																								
	維持		●	×																					
	低下		×	×																					
※(1)改革改善を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入。(現状維持の場合、コスト及び成果は「維持」)(終了・廃止・休止の場合は記入不要)																									

4 課長等意見

(1) 今後の方向性	(2) 全体総括・今後の改革改善の内容
1 現状維持	長寿への祝福は重要との認識であるが、市の財政状況を踏まえた事務事業の在り方、高齢者福祉事業の重点実施(見守り、移動を含めた生活支援)を総合的に勘案して、本事業の方向性を検討する必要がある。これにより、事業の継続に変更が生じる場合は、事前に市議会に説明するなど、理解を得た上で実施する。